

ITSで安全な交通社会の実現を！

総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室課長補佐 **上野 喬大**

経歴 **Takahiro Ueno**

平成 19 年 4 月 総務省採用（情報通信政策局技術政策課研究推進室）
 平成 21 年 7 月 同 総合通信基盤局電波部基幹通信課国際係長
 平成 23 年 7 月 国土交通省道路局道路交通管理課
 高度道路交通システム推進室情報システム係長
 平成 25 年 7 月 総務省総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐
 平成 26 年 4 月 現職

カーナビやETCの導入により車の運転はとても快適になりました。また、CMでもおなじみの自動ブレーキやACC(Adaptive Cruise Control:定速走行・車間距離制御装置)など、ドライバーの安全運転を支援するシステムも普及しつつあります。このような情報通信技術を活用して車の運転を安全で快適にするシステムをITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)とよんでおり、日本の道路交通社会に広く浸透しています。また、近年、自動運転が注目され始めたことにより、ITSの更なる進化が期待されています。

ますます高まる総務省への期待

総務省は、情報通信行政を担う立場から、関係省庁(警察庁、経済産業省、国土交通省)、自動車業界、情報通信業界など、様々な関係者と協力しながらITSの推進を図っております。具体的には、ITSで利用する電波の割当てや通信規格の策定など電波利用に関する制度整備を行うほか、研究開発や実証実験の実施、国際標準化活動を通じて、ITSの実用化に貢献しています。

道路交通が抱える問題には交通渋滞や環境汚染などがありますが、現在、特に問題視されているのが交通事故です(2014年中の交通事故死者数は4,113人)。このため、国家戦略の中でも「2018年を目途に交通事故死者数を2,500人以下とし、2020年までに世界で最も安全な道路交通社会を実現する」という目標が掲げられており、交通事故削減に貢献するITSに期待が高まっています。

総務省では、交通事故削減に向けて、従来の自動車単体で交通事故を防ぐ運転支援システム(自律型)の更なる高度化に加え、車と歩行者と道路をつなぐ高度な無線通信技術を活用した運転支援システム(協調型)の早期実用化を目指しています。これにより、物陰や大型車の後方などドライバーの死角となる位置に存在する自動車を認識できるようにするため、見通しの悪い交差点での出会い頭衝突事故等の防止に効果が大きいと期待されています。また、通信を使った協調型システムは、自動運転に不可欠な要素として、欧米を中心に世界中で開発や実証実験が盛んに行われているところであり、総務省の取り組みに対するITS関係者からの期待は、非常に大きいものとなっています。

日々の仕事とやりがい

上記でご紹介したITSを推進していく上で私に任されている仕事は、研究開発や実証実験の企画・進捗管理、技術基準の検討、海外展開など様々です。どの仕事を進めるにあっても、多くの方々の意見を取りまとめる必要があります。時には対立する意見もありますので、

まとめ役である私が、課題の背景、制度の詳細、技術の動向などをしっかりと把握していないといけません。このため、仕事の合間を見つけては、専門書を読んだり、詳しい専門家に話を聞いたりして必要な知識を取り入れるよう努めています。

また、上司や同僚とのチームワークも大切です。例えば、研究開発一つ実施するにあたって、予算要求、実施計画の策定、進捗管理、契約手続き、経理検査、有識者による評価など多くの事務が発生します。当然一人でできることではありません。チーム内でよく話し合いながらそれぞれが役割を果たすことでよい成果を出すことができます。大変ではありますが、担当している取組が新聞で紹介されたり、研究開発の受託機関から「受託した研究開発成果を事業化に結びつけました。」と報告を受けた時は、みんなで喜びを分かち合うことができ自分の仕事にやりがいを感じます。

最後に

仕事をしていくうえで日頃から私が心がけていることは、とにかく、自分に任された仕事に精一杯取り組むことです。国家公務員の場合、1、2年で異動することを繰り返しますので、ようやく自分の仕事に詳しくなったと思ったら、次の職場で新たな課題に立ち向かわなければなりません。私も入省以来、ユビキタス社会の実現に向けた研究開発の企画・調整、無線通信に関する国際標準化活動、防災ICTのアジア展開など、様々な仕事に携わってきましたが、その都度一から勉強しました。最初は大変ですが、興味を持って精一杯取り組んでいれば、新しい知識や仕事を円滑に進める術が身につく、上司や同僚から戦力として扱ってもらえ、仕事が充実したものになります。

情報通信を勉強されてきた方もそうでない方も、情報通信の未来を創る仕事に興味をお持ちであれば、ぜひ総務省を訪問してみてください。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



技官同期とも和気あいあいです。1名ハンガリー大使館に向向中ですが…

経歴 **Yu Murai**

平成 23 年 4 月 総務省採用（総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課）
 平成 25 年 7 月 同 大臣官房総務課
 平成 26 年 8 月 現職

ICTを活用した地方創生に向けて



人を成長させる総務省

経歴 **Yuri Kobata**

平成 24 年 4 月 総務省採用（総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課）
 平成 26 年 8 月 現職

皆さんは会津若松市と聞くとどのようなイメージがあるでしょうか。福島県なので震災復興や原発関連の仕事がメインなのかとお考えになるかもしれませんが、会津若松市と福島原発は100km近く離れており、原発や地震による大規模な直接的被害はありませんでした。しかしながら、観光や農業が基幹産業の一つとなっているため、風評被害は深刻な問題です。また、人口減少や高齢化等の問題も他の地方都市と同様に抱えています。こうした情勢にあつて、会津若松市では地域の活性化を図ろうと、さまざまな取組を積極的に行っています。

その取組の一つとして、経歴にも書いた通り、私はスマートシティ関連の仕事をしています。会津若松市ではスマートシティを、「情報通信技術や環境技術などを活用し、市民生活を取り巻く様々な分野での結びつきを深めながら、効率化・高度化していくこと」と定義しており、まさに、情報通信技術をさまざまな分野に応用して国民生活を豊かにしようという総務省のビジョンと同じです。

さらに最近では、地方創生の動きを国も一体となって後押しをしていますが、会津若松市ではスマートシティを地方創生の柱の一つとして掲げるという方針を市長が打ち出しています。そのため、地方創生に関する計画の策定等にも携わり、総理や石破大臣とも市長に随行する形でお会いしました。

スマートシティ推進も地方創生も、国、地元の大学、民間企業等と連携して一緒に仕事をしていく必要があります。そのため、東京出張もよくありますし、企業の方々ともよく打合せをします。総務省内でできる仕事とはまた違った充実感や楽しさがあります。このような幅広い仕事ができるのも、ICTというものが社会の次の成長を支える重要なエンジンだからです。農業でも医療でもエネルギーでも交通でもすべての分野において今後、ICTをさらに導入することでより効率化・高度化する可能性を秘めています。是非、ICTと一緒に日本を変えてみませんか？

会津若松市企画政策部総務主幹 **村井 遊**

総務省を選んだきっかけ

学生時代に通信工学を専攻する中で、意思疎通を支える通信技術はあらゆる場面で私達の安心・安全な生活に寄与する技術であると感じていました。民間事業者や有識者等の多くの方々と関わりながら、この国にとってあるべき通信の在り方を求めている行政という場に魅力を感じたことが、総務省を選んだきっかけです。

これまでの業務

入省1、2年目は、電気通信技術システム課というところで、通信障害の事前防止や緊急通報の確保等を目的とした、固定電話や携帯電話などの通信ネットワークに対する技術基準を担当しました。2年目には、携帯電話サービス等における通信障害が多発したことから、この技術基準に関する法律の改正に携わることになりました。この2年間で、私達の生活に欠かすことのできない通信サービスが、制度的にどのように確保されているかということ、また、制度改正の際には、他省庁や議員等の様々な立場の関係者に対して説明し納得してもらおうことが、いかに難しく重要であるかということを知りました。

入省3年目からは、外務省安全保障政策課宇宙室というところに出向し、衛星測位や通信・放送等、身近なところにも活用されている宇宙空間に関して、その利用に関する国際的規範作りや宇宙政策に関する国際協力等に携わっています。国内・国外の様々な関係者と関わる中で、多くの情報を迅速かつ正確に共有して次のアクションにつなげることの難しさを感じつつも、国際社会における日本の立場を考える仕事にやりがいを感じています。

終わりに

総務省を選んでよかったと感じる点は、常に成長できる機会が与えられること、尊敬できる先輩や同僚と仕事ができること、業務の中で私達の生活の向上に関わることができることです。自信を失うこともありますが、成長の機会ととらえ、周りの方々に支えていただきつつ、少しでもこの国の豊かな生活に寄与していきたいと思っています。

外務省総合外交政策局安全保障政策課宇宙室 **小幡 由里**